

児童発達支援山形コロニー ういる天童 保護者アンケート&自己評価 集計結果表
 【 情 報 公 開 用 】

児童発達支援山形コロニー ういる天童では、事業所が提供するサービスの質について、評価・点検を実施しました。より良いサービス提供を目指すとともに、自己評価を公表することで、地域みなさまに安心して利用していただくことを目的としています。
 なお、この自己評価表は厚生労働省が定める「児童発達支援ガイドライン」をもとに作成した「保護者向けアンケート」の回答結果、及び自事業所の自己チェックとなる「事業所向けアンケート」の意見等を踏まえ、「自己評価」としてまとめたものです。
 ○：おおむね良好といえる ▲：より良くしていきたい ×：改善が必要

		チェック項目	保護者向けアンケートによるご意見等	自己評価	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	○ 「教室での親子活動時、少し狭く感じる」、 「新施設では、広々と活動できている」などの意見あり	○	・療育活動の課題設定等に応じ、人数等も考慮してグループを組み、目的等を果たせるスペース活用ができるよう、日々工夫しています。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	○ 「スタッフにより、知識や経験等の差があるように感じた」等との意見あり	○	・保育士等の配置基準は各ユニット2名ずつですが、当事業所は基準の2倍以上多く配置しています。 ・職員は、保育士6名、児童指導員4名、社会福祉士3名 等、国家資格等を持つ職員を配置しています。
	③	事業所の空間や設備等は、子どもたちの活動に合わせた環境になっているか。また、環境には分かりやすい工夫やバリアフリー等の配慮がなされているか	○	○	・当施設は、療育環境として安心・安全で、分かりやすい環境を追求した構造化された施設です。また、どのような方も活動参加できるバリアフリー環境でもあります。
	④	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか	○ 「暑い・寒い等とを感じることもある」などの意見あり。	○	・毎日、施設や遊具等を適宜換気・清掃・除菌等をして清潔な環境を整えるよう心掛けています。 ・冷暖房を控えめにし、四季を感じながら自然環境条件に適応する力を育むために、療育環境として意図的な室温調整を行っています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	－	▲	・毎日。朝夕のミーティングで共有・振り返り等を行っています。目標や改善点、具体的な視点や課題対処等を設定する等、PDCAの実践を日々行っています。 ・職員一人ひとりの意識向上を図り、より良い業務が展開出来るよう、継続して取り組んでいきたいと考えています。
	⑥	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	－	○	・これからもご意見をいただき、全体で把握し改善策を実践してより良い事業所をつくっていきます。
	⑦	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	－	○	・このアンケート結果をホームページで公表し、周知することで情報公開を行っています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、調査結果を業務改善につなげているか	－	○	・昨年度の県実地指導など、第三者の指導等を活かし、より良い業務管理と法令順守に努めています。なお、法人全体では、より良い事業所運営のために内部監査を実施しており、適正な運営に向け取り組んでいます。
	⑨	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	－	▲	・法人全体で年間計画による職員研修を実施し、専門性の向上を図っています。 ・今年度も、主催研修会を天童市内で開催し、職員の研鑽だけでなく、保護者や関係機関も聴講できる機会を提供しました。 ・「ペアレントトレーニング研修」「リズム運動研修」等、外部の専門研修へ職員を派遣し、より質の高い療育支援のための研鑽を積みました。 ・日常のミーティング以外で、職員のOJT機会を、今後は定期的に行なえるよう時間と機会を調整して行きたい。
	10	子どもと保護者のニーズや課題等を捉えた児童発達支援計画が作成されているか	○ 「モニタリング等のタイミングをもっと早めに出来たら良い」等との意見あり	▲	・現状の課題や成長段階を確認しながら計画を立て、達成できる目標を意識したプランニングをしています。今後は、より保護者や利用児童等との話し合いを適時設け、適宜計画に反映できるよう努めたいと思っています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	－	○	独自のアセスメント様式や遠城寺式発達検査表等を用いることで、客観的に根拠に基づいた発達状況等の確認・把握に努めています。
	⑫	子どもの支援に必要な「発達支援」「家族支援」「地域支援」の項目が、児童発達支援計画で設定され、支援が提供されているか	○	○	・当事業所では、これらの項目が全児童の個別支援計画にもれなく位置づけられています。 ・今後は、これらの計画をより効果的で、確かな支援として提供できるよう、より一層の体制強化を目指します。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	－	○	・療育活動等の設定は、全て計画に沿ったもので進めています。また、子育ての主体である保護者が、子どもの努力や成長に気づき、家庭でも効果的に育んでいけるよう、母子通所型の療育を特徴とした支援を計画に沿って実施しています。

適切な支援の提供	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	－	○	・週間ミーティングと日々のミーティングの中で、個別支援計画に基づく活動プログラムを、児童発達支援管理責任者を中心とした職員間で検討～決定し、共有しています。
	⑮	活動プログラムは、個々の計画等に応じた工夫がなされているか	○	○	・活動プログラムは、個々の支援計画に沿った活動設定で提供されています。また、活動状況や発達の進捗等に応じて、個別に支援内容や課題設定等を調整しています。今後は、今以上に個々の発達段階や課題等に応じた支援を提供できるよう努めていきたいと考えております。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせせて児童発達支援計画を作成しているか	－	○	・課題学習をより効果的に進めて行くために、活動環境やグループ設定等を検討しています。また、個別活動や集団活動それぞれにねらいを持って計画を作成しています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	－	○	・職員間で話し合って作成した、日ごとの『支援管理表』を使用しています。支援者が、1日の動きや支援内容、支援者の役割等が具体的に把握し、ねらいに合った関わりができるよう工夫しています。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	－	▲	・支援終了後に毎日振り返りを行い、支援の中で気付いた点等の報告や、より良い対応策等を行うための意見交換、課題設定等を話し合い、次の活動に繋げています。 ・新たな職員の経験差等もサポートできるチームづくりや、個々の協働意識を高め、より全体が機能できるチームとなるよう、共有の質向上を目指していきたいと思っています。
	⑲	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	－	▲	・職員には、第三者が見ても支援状況等が正しく読み取れる記録技術の研修をしています。また、ミーティング時に職員間で記録の確認を行い、その記録をもとに支援を考えていきます。今後も継続して、職員の理解度を高め、記録の質向上を目指します。
	⑳	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	－	▲	・コンプライアンスとして、定期的な実施だけでなく、必要時等、適宜モニタリングを実施しています。今後、利用者ニーズに応じ、現状以上に適時実施できるよう、体制強化を図ります。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	－	▲	・主に児童発達支援管理責任者が参加しています。今後は、保育士等ももっと外部会議等に出席し、計画に沿った報告や課題検討等を行う機会を持てるよう工夫していきます。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	－	○	・市町村の母子保健担当者や発達相談室等と連携し、療育の提供から支援経過の共有等を行っています。
	㉓	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、地域の保健や医療、子どもの主治医、福祉や教育等と連携した支援や連絡を行う体制を整えているか	－	▲	・当事業所は、医療的ケアを要する児童を対象とした事業設定ではないため、体制や設備を整備していません。 ・医療的ケアが必要のない児童でも、医療等との連携の重要視し、必要によりかかりつけ医等と連携して支援を行っています。
	㉔	移行支援として、保育所や幼稚園等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	－	▲	・保育園や幼稚園を併用する児童が多いので、年に数回は全利用児の在籍園に訪問し、園での様子や課題等を共有できるよう主体的な連携に努めています。もっと訪問連携を図りたいのですが、職員体制上、機会を増やせない現状です。より工夫をしていきたいところです。
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	－	▲	・常から就学移行を見据えた療育支援を意識しています。また、就学先への情報提供も行っています。一方で、保育園等を併用する方が多いので、小学校等への移行連携は園が主体となっている傾向があります。
	㉖	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	－	○	・課題や問題意識を持って、専門機関等の研修等に積極的に参加しています。また、継続して発達障害等の専門医から指導を受け、日常のケース相談等も指導を受けています。
	㉗	地域の方々との交流や、地域の中で活動する機会があるか	○ 「地域交流会が開催されているのは知っているが参加できなかった」等の意見あり。	○	・今年は地域住民も交えて、「開所祭り」や「天童コロニー祭り」を開催しました。また、子育てサロンの運営に参画し、ふれあい遊びを指導しています。近隣の保育園と公園を共有して遊んだり等、地域に根付いた事業を意識しています。
	㉘	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	－	▲	・天童市の協自立支援議会は相談支援部会ができたばかりで、まだ地域の事業所が参画する機会はないのが現状です。しかし、同じ拠点にある相談支援事業所が部会に参画しており、情報は共有できています。今後は、より身近な協議会になるよう、当事業所も意欲を持って参画して行きたいと考えています。
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	○	○	・「連絡帳」を活用していますが、出来るだけ対面で保護者に活動内容や様子、連絡事項などをお伝えしています。また、家庭等での様子や取り組み等の把握にも努めています。

	③0	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	－	▲	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対しては、普段の母子活動の中で、場面場面で「関わるポイント」や「ほめ方」、「減らしたい行動」と「増やしたい行動」等の整理等について、一緒に確認を進めています。また、褒め方研修を保護者研修で行いました。今後は、ペアレントトレーニングを、現状以上に保護者に理解してもらえる様、機会を検討して行きたいと考えています。
	③1	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 利用契約の際に説明しています。運営規定、重要事項説明書等に変更があれば、随時説明し、同意をいただいています。
	③2	保護者に対して、面談・相談・助言等の支援が行われているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 発達のこと、他者との関わりのこと、就園や就学のこと等の希望や不安等の相談の中で、必要な情報提供や子育てにおける助言等を実施しています。今後は、もっと話しやすい環境の工夫や、保護者等と話す機会を増やすなど、一層努めていきます。
	③3	児童・保護者が一同に介する行事等の開催等により、保護者同士の連携・関係づくり等が支援されているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 母子通所の中で親同士の繋がりが広がっています。また、保護者会はありませんので、親だけが集まる企画はありませんが、土曜開所日に行われる親子行事や交流機会等で、親子と一緒に活動する機会や、親と子を分けて活動する機会の中で交流を図っています。
	③4	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 苦情受付システム体制については契約時の説明や、掲示、閲覧ファイルの設置等で確認できるようにしています。意見箱も設置し、随時意見を投書できます。今年度からは、年2回第三者委員の直接受付日を設け、ご意見を受け付ける機会を増やしました。
	③5	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等を子どもや保護者に対して発信しているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 季節に応じた会報を発行し、情報共有等に努めています。またホームページに活動のトピックスを紹介しています。今後は、タイムリーな更新と、そのアナウンスを保護者等に積極的に行なう努力をしています。
	③6	個人情報に十分注意しているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報とは、保護規定に沿って管理しており、安全に管理できています。今後、より良くしていくためにも、管理体制の強化や職員教育の継続等、さらに意識を高める取り組みをしていきたいと考えております。
	③7	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達については、個々に合った伝え方を大切にしています。必要がある場合には、言葉以外の情報も活用するなど工夫して支援しています。しかし、画一的かつ必要のない視覚支援は、視覚情報への依存度を高め、社会活動上の課題等を大きくしかねないため、当事業所では必要最小限の補完手段と考えています。また、母子間で一緒に確認する機能や、わからない時に確認することも育んでいきたいと思っています。
非常時等の対応	③8	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	－	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民等を招待する行事の運営や、地域の子育てサロン等の地域福祉活動への参画もしています。 地域の方とも日頃から関わりをもつよう意識し、顔の見える関係作りの構築に努めています。
	③9	緊急時対応や、防犯、感染症等への対応についての手引きを策定し、保護者に周知されているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルを整備し、業務上徹底した管理に努めています。 保護者へのマニュアル配布はしていませんが、これらの内容がよりわかりやすく伝わるよう、事業所のオリエンテーションブック（利用マニュアル）内に必要な事項を入れ、説明しています。
	④0	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 法定訓練として、年2回以上の避難訓練を実施しています。また防災確認や訓練機会を実施し、保護者や全児童に同様の機会を持つ工夫を行っています。課題点は、事業所内外での活動になっているため、避難経路や情報伝達の確認等への工夫も努めていきます。
	④1	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	－	○	<ul style="list-style-type: none"> 年1回は、全職員に法人内・外で研修する機会を持っています。また、日常活動でも、日々の確認体制を整え、指導管理を徹底しています。
	④2	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	－	○	<ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害児等、活動に安全管理等が必要なケースは、具体的な対応等を計画に入れ、その内容を説明し、同意を取っています。また、対応の機会を作らないための支援を第一義とし、やむを得ず対応を要する時は、必要最小限の対応と支援内容の記録等を行える体制を整えています。 未だ実施実績がないことは良い事ですが、このことが職員1人ひとりの意識低下に繋がらないよう、今後も日常から徹底したリスク管理に努めていきたいと思います。

	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師指示書に基づく対応がされているか	—	○	・食物アレルギーの有無等については、利用開始時に必ず確認しています。対象児は、医師の診断書の提出をいただき、提供する給食の成分表の3重チェック（保護者、事業所、給食業者）を行った上で提供しています。また、日常のおやつ等の提供時も、個々の情報を把握したリスク管理を行っています。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	—	▲	・ヒヤリハット等は、日常業務チェック項目に入れ、支援者間で共有しています。顕在化したリスクを、組織的に吸い上げ、対応策を講じていく仕組みづくりを、これまで以上に進めて行く必要があると感じています。
満足度	④⑤	子どもは通所を楽しみにしているか	○	▲	・当事業所は、母子間で愛情と信頼感を高めながら、楽しく触れ合って、運動したり遊んだりできる環境づくりに努めています。成長に必要な活動や学習機会は、『カリキュラム』としてではなく、『遊び』の中に設定を包含することで、子どもたちは遊びの中で、楽しみながら学習を進めていけるよう工夫しています。支援者は、子どもたちの努力を認め、肯定的な関わりを徹底することで、自信を重ね、望ましい活動を増やしながら成長できるよう支援しています。何より、この療育機会に参加させてくれている保護者の愛情や協力があるからこそ、子どもたちは通所を楽しみにして活動できているのでしょう。今後は、現状よりも母子のもっと小さな声も丁寧に拾い集めながら、『心から参加したい』『もっとチャレンジしたい』と思える環境づくりや活動設定等を提供していけるよう、より一層努力をしていきたいと思います。
	④⑥	事業所の支援に満足しているか	○	▲	・子どもを主体としながらも、その成長に必要な機会提供に関しては、現状以上に保護者等と話し合い、共に努力や工夫しながら前進させて行くことが最も重要だと思っています。現状に満足せず。これまで以上に、共に悩み、考え、行動し、一緒に活動していける事業所づくりを進めていきます。

職員の配置状況（令和1年2月14日現在）
施設長：1名、児童発達管理責任者：2名（施設長と兼務1、常勤専従1）、保育士：6名、児童指導員：5名

職員の資格 等（令和1年2月14日現在）
社会福祉士：3名、精神保健福祉士：1名、介護福祉士：2名、保育士：6名、児童指導員：5名、強度行動障害支援者研修修了：4名、SST社会生活技能訓練：1名、リズム運動指導者研修修了者：3名 職場適応援助者（ジョブコーチ）：1名 など